

## 1.3 第三学群

### 1 第三学群の活動

月例の学群運営委員会等を通じ関連研究科及び学系との協力体制を緊密に維持することによって、学群及び学群周辺地域に共通な教育、研究、学生の生活支援、国際交流及び管理運営等に関する問題について迅速かつ有効な解決に努めた。

近年のグローバリゼーションの流れを受けて、質の保証されたエンジニアを育成するために、国際基準に適合する教育体制の確立が課題となっている。我国にもJABEE（日本技術者教育認定機構）が設立され、審査が行われている。第三学群ではこの審査を受けるべく各学類がそれぞれ準備を行っている。学群としても審査に必要とされる科目（「技術者倫理」と「知的財産権と技術移転」）を学群共通科目として本年度から開講した。

学際的な科目が多い第三学群と専門分野ごとの縦割りの科目が多い茨城大学工学部との間で単位互換協定が結ばれ本年度から相互乗り入れが実現した。両大学間の距離や学期制の差異（3学期制と2学期制）の問題から活発な交流には至っていないが、カリキュラム選択の自由度を上げることは、今後、両大学にとって学生の視野を広げ、勉学意欲を向上させるなどの効果が期待できる。

念願である第三学群駐車場へのゲート設置が実現した。ゲート内をゾーン制としたため、駐車枠数をかなり上回る車両に対してパスカードの発行が可能になった。従来を大幅に越える自動車通学の許可は、夜間の通行、学園都市内の他研究機関への移動などに関する学生・院生の不安や不満などの解消につながった。

### 2 教員の教育業績評価の状況

第三学群では学群共通の教育業績評価基準を設けていない。しかし、学生による授業評価については、各学類ごとに授業評価のための書式が概ね作成されている。教員の裁量によって実施している学類がある一方、ほぼ義務付けている学類もある。

JABEEの認定は厳しい外部評価を受けることを意味するので、その準備を通じて教官は教育業績の自己評価をせざるを得ない。JABEEには教育機関として認定されることが目的であるが、アクレディテーションを受ける学類が、自ずからその教育機関としての体制を改善するという効果が期待できる。

### 3 自己評価と課題

数年来の大学院大研究科構想の成立によって学群を構成する5学類と大研究科の対応づけが完成した。社会工学類、情報学類、工学システム学類にはシステム情報工学研究科、国際総合学類にはシステム情報工学研究科と人文社会科学研究科、工学基礎学類には数理物質科学研究科がそれぞれ対応することになった。今後は、それぞれの学類が、対応する大研究科の専攻を視野に入れて、カリキュラムの一層の整備・充実を図ることが望まれる。

第三学群安全対策委員会は学群棟、学類棟及び関連施設の安全視察、指導等について活発に活動している。駐車場のゲート化はその大きな成果の一つである。

工学システム学類、工学基礎学類が企画・開催した高校生を対象とする体験学習は大変好評であった。また、すべての学類が機会あるごとに高校生に対する大学説明を行い学群・学類のPRに努めた。

国立大学法人化を控え、本大学も変革の時期を迎えている。少子化による入学生の学力低下に対するきめ細かい指導、グローバリゼーションに対する国際基準適合性を備えた教育体制の確立、大学院と連携した高度職業人養成のための基礎教育、これら質の異なる社会からの要請に対しどのように応えていくかが当面の第三学群の課題である。